

「海峡ロデオ大畑」の出航 —漁師から始まる地域振興—

海峡ロデオ大畑
会長 佐藤敏美

1. 地域の概要

むつ市大畑町（以下、「大畑」とする）は、津軽海峡を望む下北半島の北辺に位置し（図1）、昭和9年に町制を施行し、平成17年にむつ市と合併した。

大畑は海、川、山に囲まれた自然豊かな町である。古くから漁業と林業で栄えており、また、薬研（やげん）地区には薬研温泉郷を抱え、温泉の町としても下北の観光の一翼を担ってきた。



図1 むつ市大畑町所在地

2. 漁業の概要

大畑町漁業協同組合の令和元年の漁獲量は1,067トン、漁獲金額は7億4,171万円となっている。主要な漁獲物はスルメイカで、令和元年の漁獲量の割合は28.0%（図2）と大きく依存している。しかし、漁獲量自体は昭和40年代を過ぎると大幅に減少し、特に近年では過去に例がないほどの不漁となっている（図3）。

組合員数もピーク時の1,006人（平成9年）から431人にまで落ち込んでいる。

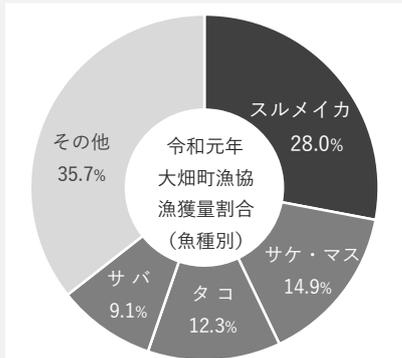


図2 令和元年漁獲量割合

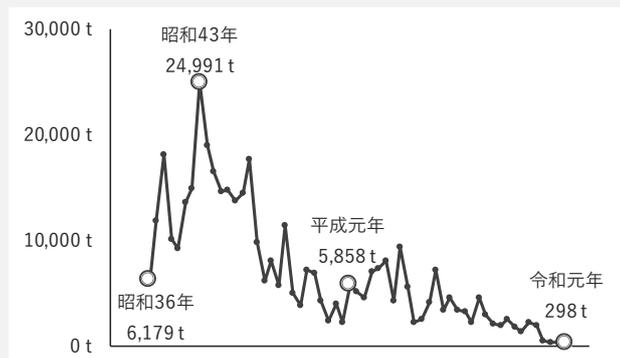


図3 スルメイカ漁獲量推移

3. 団体の組織と運営

海峡ロデオ大畑は、会則で水産業の普及、浜のにぎわいを創出することを事業目的として定め、これをもとに漁業を使ったイベントを大畑町で行っている。

漁業関係者を中心に、行政、観光関連団体、町おこしグループなど官民を問わない組織・団体で運営されており、現在は17の団体が所属している。

4. 実践活動取組課題選定の動機

大畑は漁業を基幹産業としている町である。しかし、スルメイカの不漁が続き、漁業経営体や水産加工会社が次々と廃業、町の人口も減少を続けていた。大畑の観光地である薬研温泉郷も客離れが進み、平成 28 年 11 月には薬研温泉郷最大の宿泊施設「ホテルニュー薬研」が閉館してしまうなど、このままでは、大畑の賑わいがますます失われていくのではという危機感があった。

漁業で成り立ってきた町である以上、漁業の衰退は町の衰退となる。私は株式会社金亀（きんかめ）水産に所属し、大畑の海で小型定置漁業を営んできた漁師である。大畑の魚がおいしいことを知っている。同時に、一回きりのこの人生、なにか楽しいことをしたいと常々考えていた。それも、ただ自分だけが楽しいだけでなく、みんなで大畑に集まって、みんなでなにか楽しいことをしたかったのである。

このような経緯から、任意団体を設立して、大畑で漁業を使ったイベントを実施し、水産業の普及、大畑の賑わい創出を目指すこととした。

5. 実践活動状況及び成果

(1) 海峡ロデオ大畑の設立

私は漁師であるので、魚を獲ったり網を直したりすることは得意であるが、イベントの企画や資料の作成、会議の設定、その他必要な手続きなどについては知識がなかった。漁業を中心とした町おこし団体も大畑には前例がない。

しかし、幸いにも、同級生がむつ市役所に勤務していたことや、町おこしグループ「イカす大畑カダル団」に所属していたことから、彼らと、漁師仲間である濱田一步（はまだかずほ。小型定置漁業者。株式会社金城（きんじょう）水産の船頭を務める）と話し合いをし、水産業だけでなく観光業からも協力者を募ることとした。

協力者には実際に網起こしを体験してもらい、意見交換や打ち合わせにも参加してもらった。その過程で団体の具体的な活動内容が議論され、そして、平成 30 年 2 月、水産業の普及、大畑の賑わい創出を目的とした任意団体「海峡ロデオ大畑」が設立された。この名称は、津軽海峡の荒波や魚を暴れ馬にたとえ、乗りこなす（ロデオする）ことに由来するもので、団体のロゴもそれにちなんだものとなっている（図 4）。

海峡ロデオ大畑は、会長は私佐藤敏美、副会長は濱田一步（以下、副会長）が務め、この 2 人の漁師を中心に、漁業者、漁協、行政（市役所、県水産事務所）、観光関連団体、町おこしグループ、寺、神社と官民を問わない組織・団体で構成されており（表 1）、後述の漁獲体験ツアーやグッズ販売などの活動を通して、大畑を盛り上げようという団体である。



図 4 ロゴ

表1 海峡ロデオ大畑構成メンバー

水産		観光		その他
民間		民間		民間
大畑町漁業協同組合	(株)金亀水産	(一社)しもきたTABIあしすと		イカず大畑カダル団※2
定置網組合	(株)金城水産			大畑町商工会
北彩漁業生産組合	(株)浜照水産			大畑八幡宮
行政		行政		大安寺
青森県むつ水産事務所	むつ市大畑庁舎	むつ市観光戦略課		
むつ市生産者支援課		むつ市ジオパーク推進課※1		

※1 下北ジオパーク

ジオパークは大地・自然・生活・文化のつながりを学び楽しめる場所とされ、青森県下北半島は平成28年に認定。また、パーク内の特徴的な場所をジオサイトという。



※2 イカず大畑カダル団

有志の町おこしグループ。薬研温泉カフェkadarの運営のほか、薬研地区を中心にイベントの企画・運営を行っている。



(2) 漁獲体験ツアー

漁業を知ってもらいながら楽しめるイベントとして「漁獲体験ツアー」を企画し、これまでに通算4回実施している(表2)。4回ともに共通して行っている主要企画の詳細を後述する。

表2 漁獲体験ツアー実施状況

日付	参加	主要企画	その他企画	内容
第1回 H30.4.7 ~4.8	13人	網起こし体験 魚市場見学 捌き方実演 漁師トーク	昼食 街歩き	サーモン食べ比べ膳を提供 大畑八幡宮の見学など
第2回 H30.10.26	10人	網起こし体験 魚市場見学 捌き方実演 漁師トーク	昼食	アキザケ親子丼を提供
第3回 H31.4.28	23人	網起こし体験 魚市場見学 捌き方実演 漁師トーク	ワカメ収穫体験 海峡サーモン餌やり体験 海峡サーモン一本釣り体験 魚重さ当てクイズ	定置網の縄に繁茂したワカメを収穫 沖のイケスで実施 ツアーのオプション。釣った魚は持ち帰り 網起こし体験で漁獲したサクラマスを使用
第4回 R1.11.2	15人	網起こし体験 魚市場見学 捌き方実演 漁師トーク	タコつかみ取り体験 抽選会	初獲れのマダコ・ミスダコを使用 景品は網起こし体験で漁獲した魚を使用

① 網起こし体験

参加者は2組に分かれ、定置漁船の第六十八金亀丸・第十八金城丸にそれぞれ乗船し、実際に操業に使用している小型定置網に向かって出航する。途中、平成28年に認定された下北ジオパークのジオサイトである赤岩、ちぢり浜が見えるので、添乗しているむつ市ジオパーク推進課職員の説明を聞き、ジオサイトへの理解を深めてもらう。網に到着後、参加者は私や副会長の掛け声とともに網起こしを行う(写真1)。水揚げした魚を実際に触ってもらい、仕分け作業を手伝ってもらう。参加者がサケやマスをつかみそこねている様子や、イカに墨をかけられる様子が見られ、大いに盛り上がる。

帰りは2隻で並走するなど、荒波に揺られながら(=『ロデオしながら』)帰港する(写真2)。

網起こし体験は、漁獲体験ツアーの軸となる企画である。ほとんどの参加者は漁船に乗ること自体が初めての経験であり、漁船から見える景色や船の揺れ方、生きた魚の力強さ、そして何よりも船上での漁師の仕事をじかに体験できる貴重な機会として好評を得ている。「次は実際に漁が行われている時間に体験したい」という意見も聞かれ、本企画を通じてより強く漁業に関心を持ってもらえたものと手応えを感じている。



写真1 網起こし



写真2 ロデオの様子

② 大畑町魚市場見学

現在の大畑町魚市場は老朽化していた旧魚市場に代わって平成30年4月から稼働した新しい施設である。網起こし体験からの帰港後は、この施設を利用した企画を実施している。

参加者には、荷受けから威勢の良い掛け声が飛び交う入札まで、魚市場の賑やかな様子を見学してもらう(写真3)。地元の参加者からも「建物の外観は知っていても、その中で何が行われているかまでは知らなかった」という感想が聞かれ、通常では目につきにくい魚市場の役割について理解してもらうことができた。



写真3 荷受け見学

③ 魚捌き方実演

魚捌き方実演(写真4)を行うのは、海峡ロデオ大畑のメンバーであり、北彩漁業生産組合でブランド魚「海峡サーモン」の養殖業・加工業に携わっている濱田勇一郎組合長である(以下、組合長)。捌く魚は主にサケ・マス類で、網起こし体験で漁獲したものを使用する。私と組合長で掛け合いをしながら捌いていき、塩焼きにするための下処理まで行う。組合長の見事な包丁捌きに歓声があがり、また、掛け合いが面白いとの感想も聞かれた。魚の捌き方は参加者がツアー後も自分で実践できることから、漁獲体験ツアーでは外せない企画である。また、組合長にはツアーの昼食として『サーモン食べ比べ膳』を用意してもらったこともある。海峡サーモン、サクラマス、アキサケ、トキシラズの刺し身を食べ比べられるのは大畑ならではの、捌き方実演と合わせて参加者への魚食普及につながった。



写真4 魚捌き方実演

④ 漁師トーク

漁獲体験ツアーは賑やかな宴会で幕を閉じる。この宴会では金亀水産、金城水産が事前に提供した魚介類や、前述の捌き方実演で切った切り身を利用した料理の提供が行われる。参加者は自ら獲った魚の料理を楽しみながら、私や副会長と「漁師トーク」を行う。

漁師トークは質疑応答形式で進行し、普段の漁師の生活や操業中に起きた出来事などを話したり、参加者からの質問に答えたりしながら交流を深める。参加者だけでなくスタッフともども大いに盛り上がり大宴会へと発展するのが恒例であり、ツアーの最後にふさわしい企画である。ある宴会場の従業員が言った「大畑の夜がこんなに賑やかなのは久しぶりだ」という言葉は今も心に残っている。

(3) グッズ販売

海峡ロデオ大畑の知名度アップと収益増加を目的として、Tシャツ(通称「ロデオTシャツ(写真5)」)、あたりめ、さきいかといったイカ加工品(通称「鳥賊ロデオ珍味(写真6)」)を制作した。これらは漁獲体験ツアーや地元イベントで販売したほか、ロデオTシャツはむつ市内3店舗で店頭販売してもらった。令和元年度の決算までに、ロデオTシャツは270枚以上を販売し約56万円の売り上げ、鳥賊ロデオ珍味は210個以上を販売し8万4,000円を売り上げ、どちらも予想以上に売れたことから、増産して販売を続けている。

特にロデオTシャツは、設立当初はツアーのスタッフTシャツ、参加者への手土産用として少数のみ制作していたが、スタッフやツアー参加者以外からの購入希望が多く寄せられたため増産し、一部店頭での販売も依頼することとなった。



写真5 ロデオTシャツ



写真6 烏賊ロデオ珍味

(4) わいどのめえもの夕市

海峡ロデオ大畑はこれまで漁獲体験ツアーを活動の中心としてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和2年度は漁獲体験ツアーを実施できなかった。

われわれの活動に限らず、大畑ではほぼ全てのイベントが中止となり、町の活気が急速に失われていった。

そこでコロナ禍での浜の賑わいづくりに挑戦するため、令和2年10月24日、大畑町魚市場駐車場で『わいどのめえもの夕市（以下、「夕市」とする）』を開催した。この夕市は「わいど（＝私たち）」の「めえもの（＝うまいもの）」、つまり大畑の美味しいものを楽しめるイベントであり、私や副会長が定置網で漁獲した新鮮な魚介類を始め、さまざまな大畑のめえものが販売されたほか、活魚水槽による魚釣り体験コーナーも設けた（写真7）。開催に当たっては、来場者、スタッフ全員にマスクを着用してもらったほか、会場入り口では検温、手の消毒を実施するなどの感染症対策を講じた。

出店は10団体に制限したが、それでも述べ800人以上の来場があり、各店舗とも売り切れが続出した。イベントの終わりには大畑で今年最初の打ち上げ花火を行い、夕市は大成功を収めた。

このイベントによる新型コロナウイルス感染者は確認されていない。来場者、出店者の両方が満足するイベントとなり、一時的とはいえ、浜にも活気が戻った。今後も、この夕市を継続していきたい。



写真7 夕市の様子（左：鮮魚販売、右：魚釣り体験コーナー）

(5) 活動を通じて

第1回目のツアー前は、私を含め海峡ロデオ大畑メンバーは不安な思いを口にしていました。入念な準備をし、マスコミにも取り上げてもらっていたが、実際に参加者が集まるかは分からなかったからである。しかし、第1回目のツアーでは13人の参加者が集まってくれた。これまでの通算参加者数は61人である。開催費用も補助事業を利用したのは初回のみで、それ以降は海峡ロデオ大畑単独の予算で賄っている。毎回欠かさず集まってくれる人、県外から家族連れで参加してくれた人もいて、水産業の普及、大畑の賑わい創出に貢献できていると感じた。ロデオTシャツも、今では大畑のみならず下北半島の至る所で誰かが着用しているのを見かけることがある。

夕市では大畑という町の底力を感じた。夕市の企画を始めたのは、秋の漁獲体験ツアーの中止を決定した直後の令和2年9月4日であり、出店の依頼をしたのはさらにその後だった。初めて実施するイベントにもかかわらず、実際の準備期間は1カ月ほどしかなかった。しかし、各団体とも快く出店を引き受けてくれた。告知期間が短いうえ、検温、消毒、マスク着用といった不便を強いたが、来場者数は想定を大きく超えた。コロナ禍であっても、みんなの力を借りれば海峡ロデオ大畑は活動を続けられる。

いつも積極的に協力してくれる海峡ロデオ大畑のメンバー、ロデオTシャツを購入し陰ながら支援してくれた人たち、なにより、海峡ロデオ大畑を見つけて大畑に足を運び、私たちとともに大畑を盛り上げてくれた方々に心から感謝したい。

6. 波及効果

海峡ロデオ大畑の活動がほかの団体に注目され始め、イベントや講演会などへの協力を依頼されるようになった(表3)。大畑の外からも依頼があり、認知度の高まりを実感した。また、これらの活動から海峡ロデオ大畑を知り漁獲体験ツアーに応募したという参加者もいて、大畑や漁業のPRの場としても効果があった。

表3 他団体主催企画への参加状況

日付	主催	企画名
H30.9.5	青森県漁協青年部連絡協議会	平成30年度青森県漁業青年部連絡協議会研修会
H30.9.13	青森県漁港漁場協会	平成30年度青森県漁港漁場整備事業研修会
H30.12.1	下北ジオパーク推進協議会	第2回下北ジオパーク学習・活動発表会
R1.7.13	むつ市青年会議所	下北体感サバイバルキャンプ
R1.9.25	むつ市	飛鳥II歓迎イベント
R1.10.1	青森県下北地域県民局	知事との元気まるごとトーク
R2.1.22	青森県	第61回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会
R2.2.23	薬研温泉開湯400年祭実行委員会	Yagen Grand Snow2020
R2.6.20	青森県漁業協同組合連合会	第2回あおもりの着フェアin下北
R2.11.14	青森県漁業協同組合連合会	第3回あおもりの着フェアin下北

7. 今後の課題や計画と問題点

(1) 課題

今までの漁獲体験ツアーは天候に恵まれてきたが、出航できないほどの悪天候時であってもツアー自体を中止にすることなく参加者に満足してもらえるような企画を準備する必要がある。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況の様子を見ながら、漁獲体験ツアー実施の可否を判断することにしたが、結局は一度も実施することができなかった。収束のめども立っていないため、感染症対策を講じながら実施できる内容を検討する必要がある。

(2) 計画

① 課題の解決に向けて

悪天候でも参加者に網起こしや釣りを体験してもらえるよう、小型いけすの入手を検討している。

これは以前、他団体主催企画の「下北体感サバイバルキャンプ」において、借りたいけすを用いて漁港内で実施した網起こし体験を基にしている（写真8）。

その時は、子どもたちが漁業や生きた魚に触れられる貴重な機会だと好評だったので、子ども向けの内容も考案し、いずれは水産教室などの担い手確保の活動にもつなげていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症流行下での漁獲体験ツアーは、オンライン形式で実施する。オンライン形式の利点を生かして、より多くの県外の方に大畑の魅力を知ってもらえるよう企画を考えていきたい。



写真8 子どもが網を引く様子

② 今後の活動について

下記のことを予定・検討している。

- (ア) 来年度5月の大型連休に通算5度目となる漁獲体験ツアー開催
- (イ) わいどのめえーもの夕市の定期開催
- (ウ) 海峡ロデオ大畑のホームページの作成
- (エ) サクラマス、スルメイカなど旬の魚介類の通信販売
(通称：海峡ロデオ産直便)
- (オ) 今年度3月に海峡ロデオ大畑主催サクラマス釣り大会を初開催
(通称：海峡ロデオ大畑カップ)

いずれも現段階で検討されているものであり、他にも参加・実施可能な企画があれば積極的に実行に移し、大畑の漁業振興・町の賑わいづくりに貢献していきたい。